

＜株式会社エフエム東京 第326回放送番組審議会議事録＞

1. 開催年月日：平成17年11月8日（火）

2. 開催場所：エフエム東京 本社10階大会議室

3. 出席委員（6名）

子安 美知子 委員長

青 池 愼 一 副委員長

横 森 美奈子 委員

内 館 牧 子 委員

内 木 文 英 委員

渡 辺 貞 夫 委員

4. 番組試聴

【番組名】「ザ・ライン～僕たちの境界線」

【放送日時】2005年5月30日 5:00～6:00

【番組概要】

社団法人日本民間放送連盟が主催する「第一回日本放送文化大賞」のラジオ部門・準グランプリ作品に選ばれた「ザ・ライン～僕たちの境界線」をご試聴頂きます。
(「日本放送文化大賞」は、民間放送連盟の会員各社において質の高い番組がより多く制作・放送されることを促す目的で、視聴者・聴取者の期待に応えるとともに、放送文化の向上に寄与したと評価される番組を顕彰する目的で制定されました。審査は、地区審査と中央審査に分けて行なわれ、ラジオ部門の地区審査には全国から69番組が参加、その中から中央審査へと7作品が選出されていました。)

「反日」。私たちに重くのしかかる、この2文字。日本人は、なぜ嫌われるのか。

“韓流ブーム”で一気に距離を縮めたかと思われた日韓関係も、竹島問題などをきっかけに「反日」デモや抗議が頻繁におきており、また、中国を筆頭にアジア諸国でも、大規模なデモが発生している。この感情の違いは、一体何なのか。

日本をよく知り、日本とアジア諸国との歴史問題にも直面して生きてきた在日朝鮮人の方々の話を中心に、私たちが考えなければいけないことは何なのか、を考える。

反日運動で強く現れた“日本とアジアの境界線-ザ・ライン-”を探る。

＜試聴時間：約60分（事前試聴）＞

【委員の意見および社側説明】

（「○」委員意見／「■」社側説明）

- エンディングの前までは大変面白かった。着地がぼけたように感じた。
- 素晴らしい作品を久しぶりに聴いた。こういう作品も作っていることが分かり、良かった。
- 厚みのあるとても良い作品だった。
- 多面的で多次元的な現象に、正面から勇気をもって切り込んでいった点に、まず敬意を表したい。
- 難しいテーマである。制作者の目線・立脚点が分かなかった。その点以外は大変面白く聴かせて頂いた。
- 民間レベルで日韓関係を取り上げ、韓流ブームというプラス面と、政治レベルでの反日というマイナス面を含んだ番組であった。番組の冒頭部分での問いかけ「なぜ日本人は嫌われるのか？」に対して、番組はどう着地していただろうか？
- 多面的であり多重的、複雑な問題に、どのように焦点をあてていたのか。もうひとつはっきりしない印象を受けた。
- 「なぜ日本人は嫌われるのか？」という問いがところどころに出てきて、それが刺激となり番組をととても面白くしているが、公開シンポジウムであつたら完全に突っ込ま

れる。「なぜ日本人は嫌われるのか？」という重いテーマに対して、それなりに着地の方法はあると思う。番組の冒頭で、「日本人がいけないのは、韓国と中国の歴史を知らないこと」というコメントがあるが、盧溝橋の抗日博物館に行ったときに日本を曲げて伝えているなという印象を受けた。「日本人が韓国と中国の歴史を知らないことが一番いけない」と言ったときの制作者の目線はどこにあるのか？この裏に、韓流ブームで韓国にしょっちゅう行っているおばさんたちや、第2のヨン様を目指して日本に荒稼ぎに来ている韓流スターたちの状態を、シニカルな目線で一本いれていれば、大分違ったのではないかという気がする。ただ、テーマは素晴らしい。数多くのエントリーの中から、この作品が準グランプリに選ばれたことは素晴らしいことだと思う。

- 日韓の狭間で悩んでいる白さんや沢さんたちのメッセージを取り上げる作り方は、エピソードとして素直に聴きやすかった。ただ、結論の部分で、日本と韓国の問題ではなく、急に人類愛的な話になってしまった。これからの日韓関係を考える上で、私たちはどうすればいいのか？ということに対する、結論までは求めないが、せめてヒントになることがほしかった。
- このような大きな問題を取り上げたことは大変評価できる。特別番組として作るだけではなく、対談や討論などの形でレギュラーで放送するのもいいなと思った。突っ込み方については、当事者でないと分からない問題がたくさんあると思う。国家レベルでの感情と個人レベルでの感情は違う、などの小さな切り口がたくさん盛り込まれていて良かった。特に沢さんは、そういうこと認識して仕事をしていることが素晴らしいと思った。
- たくさんの人の話を丁寧に音にしていたことが、素晴らしいと思った。
- 個人的に小学生の頃に向こうにいた。同窓会の企画で母校を訪ねるまでは、戦後50年余り、ずっと怖くて行けなかった。「ごめんなさい」という人もいるけれど、そんなに単純なものではない、というコメントが番組にあったが、その通りだと思う。また、両国の関係改善には何世紀もかかるでしょう、というコメントについてもその通りで、

日本人にとってはもう 60 年かもしれないが、向こうの人にとってはまだ 60 年という意識の差がある。ちょっとやさっとじゃ埋まらない差ではあるが、だからこそこのように何度も何度も考えることは大切だと思う。

- 制作者の方は大変勉強されたようだ。結論が無いテーマだと思う。多層的・多面的であるだけに、たくさんの意見があり、語りつくすことは不可能であろう。それほどにこの問題は深い。しかし、それだけに、たくさんの人の意見を聞いて、自分なりに「姿」を思い描くことが重要。在日の方だけではなく、韓国の方にも語って頂きたかった。もっと色々な人に語っていただくシリーズの企画にして頂きたいと思った。
- ラインとは何の境界線だったのか？ どのようなものか？「ライン」をテーマにしているので、それについての説明が番組中に欲しかったと思う。
- 境界線とは「あなた」だというように感じた。リスナーに自問せよ、と言っているようにも受け取られた。
- 問題を解決するということではなくて、ぶつかっていく姿勢が感じられて良かった。
- 沢さんの、日本語で歌うことを許されたときの発言に、彼女ならではの深い想いや感動が感じ取られた。あの台詞を聴けて良かった。

5. 放送番組審議会の内容について

審議会の意見は、放送番組審議会事務局から各担当部長に伝達した。

6. 公表

議事内容を以下の方法で公表した。

- ① 放送: 番組「TOKYO FM ブランニューソング」
11月25日(金) 5:00~6:00放送
- ② 書面: TOKYO FM サービスセンターに据え置き

③ インターネット:TOKYO FM ホームページ内

<http://www.tfm.co.jp>

7. その他

次回審議会は12月6日(火)に開催することを決めた。

以 上